

実務に基づくマネジメント経験とアカデミックな知見の融合を



国際社会科学府研究科 博士課程前期
経営学専攻 マネジメント専修コース※
2010年修了 ※修了当時

黒木 英昭 さん

全日本空輸株式会社

Q1 入学の動機を教えてください

これまで管理職として様々な部署・業務を経験して、実務を通じて身に付けたマネジメントや意思決定の論理を、アカデミックな環境に身を置いて、体系的・理論的に磨く研究をしたいと考えたのが動機です。

Q2 研究内容について

近年の企業では、規制緩和や情報開示などの経営環境変化から、安全・安心の顧客価値の重要性が増大していると考えています。毎日のように報道される企業の不安全事故や不祥事は、社会的にも大きな影響があり、また、企業の存続に関わるからです。そこで、安全・安心が事業基盤である航空会社を事例にとり、企業が、安全・安心につながる高信頼性をどのように組織能力化していくのかをYBSでの研究テーマとしました。

研究を進めるに従い、「組織の境界設定」、つまり、どの業務を内部化し、何をアウトソーシングするかの棲み分けを、如何に意思決定し、その後のマネジメントを行うか、というテーマが浮かび上がり、更に博士後期課程で研究を継続させて戴きました。先生方のご指導のお蔭で、博士（経営学）学位まで取得させて戴きましたが、実際の社会現象も変化を続けており、更に、研究を発展させたいと考えています。

Q3 在学中の仕事等との両立をいかに行いましたか

通学・研究時間を捻出するため、仕事の先読みや効率化を図りつつ、通勤時間など細切れの時間を文献調査や読み込みなどに有効活用し、論文執筆に纏まった時間を確保するなどタイム・マネジメントを工夫しました。とはいえ、睡眠時間を削って取り組むことも多く、土日の一方は余暇も楽しむなど、メリハリをつけて長期の両立生活を乗り切りました。そして、共に学ぶ仲間と応援してくれる家族の存在が大きな支えでした。

Q4 YBSでの「学び」が業務にどう活かされていますか

やはり、仕事における課題や環境の把握、対応の意思決定などに関して、以前より論理的な見方や考え方が身についたと思います。また、自分の意見や意思決定を論理的に説明したり、後進の指導も体系的・論理的な裏付けをもって行うことができるようになったと思います。

プライベートで、息子の大学の研究テーマや論文と一緒に議論出来たのもいい思い出です。

Q5 YBSを志望する人へのメッセージ

取得する単位数や、課題や調査・論文執筆などを合わせると、2年間はとて短く感じられるほどです。

従って、社会人では時間的な制約が生じるのは避けられませんが、これを逆にとり、仕事の効率化や余暇のメリハリを充実させ、自分を磨く2年間にできる貴重な機会だと思います。ご家族の協力も得ながら、是非、チャレンジされることをお勧めします。

